高知県立坂本龍馬記念館・令和元年度連続講演会

幕末キーパーソン
―龍馬をめぐる人々―

聴講無料

高知県立坂本龍馬記念館では、坂本龍馬や幕末に関する、県内外の研究者による最新の研究成果や知見をご披露いただく「連続講演会」を開催します。今回は「幕末キーパーソン　－龍馬をめぐる人々－」をテーマとして、幕末期の重要人物5人について、県内外の研究者にご講演いただきます。

第1回　6月22日(土)　大阪経済大学特別招聘教授　家近 良樹 氏
幕末期の徳川慶喜について ―山内容堂の存在も視野に入れて―

第2回　8月24日(土)　三重大学・大阪教育大学非常勤講師、京都大学大学院法学研究科研修員　齊藤 紅葉 氏
木戸孝允　「藩」をこえた近代日本 ―坂本龍馬ら土佐との関係を交えて―

第3回　10月26日(土)　明治大学文学部教授　落合 弘樹 氏
坂本龍馬と西郷隆盛 ―薩長盟約の背景―

第4回　12月14日(土)　国立歴史民俗博物館教授　樋口 雄彦 氏
勝海舟と龍馬をめぐる幕臣たち

第5回　令和2年 2月22日(土)　高知県立高知城歴史博物館館長　渡部 淳 氏
容堂の言葉 ―書状にみる政治観・人生観―

場所／高知県立坂本龍馬記念館 新館ホール　時間／各回ともに13:30～15:00頃(開場13:00)
対象／一般(概ね高校生以上)　定員／各回ともに100名(先着順)
申込方法／高知県立坂本龍馬記念館までお電話・メール・FAXでお申し込みください。FAX、メールの場合は「お名前・ご住所・お電話番号」をお書きください。メールの場合は件名に「連続講演会聴講希望」とお書きください。

★当日は当館駐車場が混み合うため、桂浜公園駐車場から当館までの無料送迎タクシーを実施します(11:00～17:00実施予定)。
聴講される方は、桂浜公園駐車場をご利用ください。
★講演会を聴講される方には、無料観覧券を進呈いたします。当日設置する受付にてお申し出ください。

主催・問い合わせ先
高知県立坂本龍馬記念館(公益財団法人高知県文化財団)
〒781-0262 高知市浦戸城山830番地　TEL(088)841-0001　FAX(088)841-0015
ホームページ https://ryoma-kinenkan.jp　メール ryoma@ryoma-kinenkan.jp

高知県立坂本龍馬記念館
The Sakamoto Ryoma Memorial Museum

講 師 紹 介

第1回　6月22日土　幕末期の徳川慶喜について　－山内容堂の存在も視野に入れて－

大阪経済大学特別招聘教授

家近 良樹 氏

講師からのメッセージ

最近、渋沢栄一が新一万円札の肖像のモデルとなることが発表されました。その渋沢が惚れたのが西郷隆盛といま一人、徳川慶喜でした。本講演では、その慶喜の幕末時の活動について注目すべき点を幾つかお話します。また、山内容堂の存在が、殊の外、慶喜の幕末時の動向と深く関わっていたことも時間の許す範囲内でお話したいと考えています。

プロフィール

1950年大分県生まれ。同志社大学文学部卒業。同志社大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。中央大学博士（文学）。大阪経済大学教授を経て、現在は同大学特別招聘教授。主な著書として『幕末政治と倒幕運動』（吉川弘文館、1995年）、『幕末の朝廷』（中公叢書、2007年）、『西郷隆盛と幕末維新の政局』（ミネルヴァ書房、2011年）、『江戸幕府崩壊』（講談社学術文庫、2014年）、『老いと病でみる幕末維新』（人文書院、2014年）、『西郷隆盛』（ミネルヴァ書房、2017年）、『歴史を知る楽しみ』（筑摩書房、2018年）など多数。

第2回　8月24日土　木戸孝允　「藩」をこえた近代日本　－坂本龍馬ら土佐との関係を交えて－

三重大学・大阪教育大学非常勤講師、京都大学大学院法学研究科研修員

齊藤 紅葉 氏

講師からのメッセージ

倒幕から廃藩へ、「開化」の新時代への変革を主導した木戸孝允。長州の一藩士から、いつ、どのようにして中央集権国家を描き、実現させるだけの力をつけて、明治政府の主導者となっていったのでしょうか。薩長同盟をめぐる坂本龍馬との関係や、明治以後の後藤象二郎、山内容堂ら土佐出身者との関わりを交えながら、木戸が目指した近代国家の姿を明らかにし、それを通して明治維新を考えたいと思います。

プロフィール

1982年北海道生まれ。京都大学文学部、京都大学大学院文学研究科修士課程、同大学院法学研究科博士後期課程修了、同大学院法学研究科特定助教を経て、現職。京都大学博士（法学）。専門は日本政治外交史（幕末維新期政治史）。
主な著書に『木戸孝允と幕末・維新－急進的集権化と「開化」の時代　1833～1877』（京都大学学術出版会、2018年）、「木戸孝允と薩長同盟－慶応元年から慶応三年－」（伊藤之雄・中西寛編『日本政治史の中のリーダーたち－明治維新から敗戦後の秩序変容まで－』（京都大学学術出版会、2018年）など。

第3回　10月26日土　坂本龍馬と西郷隆盛　－薩長盟約の背景－

明治大学文学部教授

落合 弘樹 氏

講師からのメッセージ

幕末・維新最大の英雄とされる西郷隆盛は、多くの曲折を経つつも、将軍継嗣問題と安政の大獄・禁門の変・薩長盟約・王政復古・江戸無血開城・廃藩置県・明治6年の政変・西南戦争と、歴史上の重要な局面に直接関わった人物です。そうした西郷に坂本龍馬がどのように向き合い、いかなる対応をしたのか？こうした点を考えながら、薩長盟約、さらには大政奉還前後の両者の関わりについて検討していきます。

プロフィール

1962年大阪府生まれ。中央大学文学部卒業。中央大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。京都大学人文科学研究所助手を経て、2003年より明治大学文学部助教授。2008年、教授に昇格。現在、明治大学文学部史学地理学科長および明治大学博物館副館長を務める。京都大学博士（文学）。専門は幕末・維新史、特に明治維新と武家の解体、明治期における士族のありかたをテーマに研究をすすめている。
主な著書に、『明治国家と士族』（吉川弘文館、2000年）『西郷隆盛と士族』（吉川弘文館 、2005年）『敗者の日本史18　西郷隆盛と西南戦争』（吉川弘文館、2013年）『秩禄処分 ―明治維新と武家の解体－』（講談社 2015年）など。

第4回　12月14日土　勝海舟と龍馬をめぐる幕臣たち

国立歴史民俗博物館教授

樋口 雄彦 氏

講師からのメッセージ

坂本龍馬は師である勝海舟の人脈から、あるいはそれ以外の理由により少なからぬ幕臣たちと関係を結びました。武術の対戦相手、海舟門下の同窓生、幕府海軍の関係者、同志的な立場をとった人物、あるいは暗殺者など、海舟とともに龍馬を取り巻いた多様な幕臣たちについて取り上げ、幕府側から見た龍馬像を考えたいと思います。

プロフィール

1961年静岡県生まれ。静岡大学人文学部卒業後、沼津市明治史料館に学芸員として勤務。2001年より国立歴史民俗博物館助教授（2007年准教授）、2011年より同館及び総合研究大学院大学教授。大阪大学博士（文学）。
主な著書に『旧幕臣の明治維新　沼津兵学校とその群像』（吉川弘文館、2005年）、『沼津兵学校の研究』（吉川弘文館、2007年）、『静岡学問所』（静岡新聞社、2010年）、『海軍諜報員になった旧幕臣－海軍少将安原金次自伝－』（芙蓉書房出版、2011年）、『第十六代徳川家達　その後の徳川家と近代日本』（祥伝社、2012年）、『敗者の日本史17　箱館戦争と榎本武揚』（吉川弘文館、2012年）、『人をあるく　勝海舟と江戸東京』（吉川弘文館、2014年）、『幕臣たちは明治維新をどう生きたのか』（洋泉社、2016年）など。

第5回　令和2年 2月22日土　容堂の言葉　－書状にみる政治観・人生観－

高知県立高知城歴史博物館館長

渡部 淳 氏

講師からのメッセージ

明治維新百年を間近に控えた1966（昭和41）年1月、近代史家の平尾道雄（1900～1979）は維新史の再検討が各方面から期待されていることを強く意識して、高知地方史研究会編『土佐群書集成』（高知市民図書館）の第5巻として『山内公遺翰』（上）（下）を発刊しました。その中から、容堂が盟友松平春嶽や伊達宗城に宛てた書状を読み解き、幕末政治に重きをなした容堂こと、土佐藩十五代藩主山内豊信の政治観や人生観、趣味と教養を紹介します。

プロフィール

1962年生まれ。名古屋大学大学院（史学・地理学専攻）博士後期課程修了。日本近世史専門。土佐山内家宝物資料館学芸員、副館長、館長を経て、2016年より高知県立高知城歴史博物館館長。（公財）土佐山内財団理事。
主な著書に『検証・山内一豊伝説　「内助の功」と「大出世」の虚実』（講談社現代新書、2005年）、『大学的高知ガイド－こだわりの歩き方』（共著、昭和堂、2019年）など、論文に「豊後国元禄国絵図の村について」「九州筑紫・松浦領における豊臣刀狩令の年紀比定」（いずれも『日本歴史』）など。